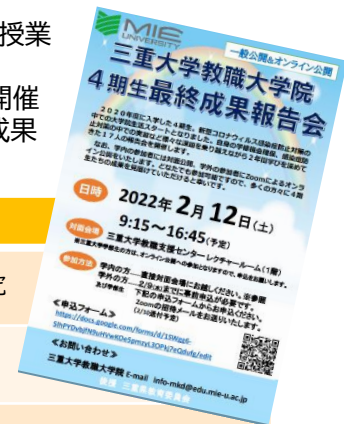


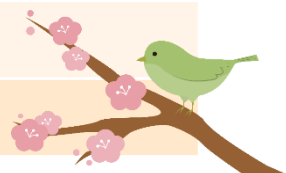
4期生「最終成果報告会」開催!

2020年4月、新型コロナウイルスが猛威をふるい始め、学校の臨時休業やオンライン授業開設など、ゆれうごく社会のなかで入学してきた4期生。

2022年2月12日(土)、4期生の2年間の学びの集大成となる「最終成果報告会」が開催されました。Zoomによるオンライン開催となりましたが、学内外から多くのかたにその成果報告を見届けていただくことができました。



名前	学修テーマ
浅井 慎哉	文学教材における子どもの問いを深い読みにつなげる授業実践の研究
坂倉 伊織	児童の自律をめざした授業における振り返りの研究
白鷹 直樹	中学校理科教育における日常事象との関連を重視した授業実践
鈴木 秀	高等学校におけるピア・レスポンスを活用した自由英作文指導の研究
田中 真弓	外国にルーツをもつ児童の学習言語獲得に向けての支援の在り方 ～JSL対話型アセスメント「DLA」を活用して～
谷中 聖子	「伝え合う力」を育む国語科指導法の検討 ～全員参加の授業づくりをめざして～
永合 本幸	心理的安全性を高め、Wellbeingな職場を目指す研究 ～メニュー表を用いたミニ研修による対話を通して～
長谷川 真大	授業になじみにくい生徒の居場所づくりに関する研究 ～生徒の「問い」に焦点をあてた中学校社会科の授業実践を通して～
藤井 俊	小学校における同僚性に基づいた教師間連携の研究
米川 佳伸	効果的な話し合い活動による授業創造に関する研究 ～優れた実践者・授業から学ぶ～
市橋 拓実	ものづくりに対する興味関心を高めるCADを活用した授業づくり
岩花 春美	子どもの学びを起点としたカリキュラム・マネジメントのあり方に関する研究 ～奈良女附小の「学習法」の検証を通して～
桜木 隆伍	高等学校における数学的な考え方を引き出す授業づくり ～生徒がChromebookを活用することを通して～
内藤 祐毅	仮説と考察を取り入れた小学校理科での科学的な思考の定着を目指した授業実践
松岡 慶	「自ら学ぶ力」を育む授業モデルの形成 ～振り返り実践を通して～
山野 雄一郎	歴史的な地域教材がもたらす児童への影響 ～小学校4年生・6年生での事例研究を通して～
山本 悠太	子ども同士の関わりを促す教師の働きかけ



5期生「中間報告会」が開催されました

2月3日(木)、5期生の1年間の学びの成果と、次年度よりはじまる現任校実習・連携校実習の計画を報告する「中間報告会」が開催されました。複数の部屋にわかれてのオンラインでのポスターセッションとなりましたが、どの部屋も濃厚なディスカッションがおこなわれました。

院生の声：「中間報告会」を終えて

コロナ禍で対面での中間報告会開催が難しく、Zoomでの開催でしたが、準備にご尽力いただいた先生方、関係者の方々にお礼申し上げます。多くの方々に自分の発表を聞いていただいて、「おもしろい実践だね。」とお言葉をいただいたり、質疑応答を通して自分の学びを深めたりすることができました。中間報告会で教えていただいたことを、来年度の現任校実習に生かしてより良い研究にしていきたいと思います。

(学校経営力開発コース・経営力開発分野・木村弘孝)

中間報告会では、1年間の研究をポスターにまとめることを通して、自身の研究を整理することができました。また、先生方や4期生の方からは様々な視点から研究を更に良いものにするためのご意見をたくさんいただきました。そして、5期生の仲間の発表は私にとって大きな刺激となり、今後の研究や4月からの現任校実習を通してさらに学びを深めていきたいと改めて考える機会となりました。ありがとうございました。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野・体育・山本洋也)

中間報告会では、5期生が1年間の研究の総括をしました。相手に伝えるように、1枚の紙にまとめるのは難しかったですが、今までの研究を整理する機会になりました。報告会では、新たな気づきや学びがありました。報告会でいただいた言葉を整理し、来年度の連携校実習に向けて準備したいと思います。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野・社会・中西翔野)

私はポスター形式での発表は初めてで作り方や発表の仕方など戸惑うことも多かったですが、指導教員の先生をはじめ、多くの先生や学生からアドバイスを頂き、仕上げることができました。報告会では、様々なご意見を頂き、新たな視点の発見や視野の広がりを体感しました。今回得た学びをこれからの研究に繋げられるよう励みたいと思います。

(教育実践力開発コース・教科教育高度化分野・国語・木下絵里加)

森脇健夫先生「最終講義」が開講されました

1月28日(金)、三重大学教職大学院の初代専攻議長・森脇健夫先生の「最終講義」が開講されました。森脇先生に「最終講義を終えて」お感じになったことをおたずねしてみました。



「最終講義」を終えて

森脇 健夫

30年間、いろんなことがありました。1995年の阪神大震災、2011年の東日本大震災、いずれのときもなぜか組合の執行部をやっていて、チャリティーを開催して「お金集め」をしたことを憶えています。

研究や教育については、持続的な営為ですので、日々のルーティーンをこなしてきた、と一言で言えば言えるのですが、新たに常識になり、あるいは歴史の中に埋もれてしまったものを数えてみると、けっこう変化の大きさを感じます。「昔はよかった」などとは言いたくありませんが、最後の2年間のコロナの影響は大きく、わからないうちに、知らないうちに変わってしまったことがけっこうあって、2020年～〇〇年はエポックメイキングだったと後世の史家が指摘するのではないのでしょうか。デュエイは「人間は習慣の被造物である」と言っています。今になってその意味がわかるような気がします。

三重大学に来た当初は、三重県に「埋もれる」ことが嫌で、自分の家は京都において、大阪方面にも開かれているという位置を確保しておきたかったのですが、30年間過ぎてみて、三重県の東西文化の混交性がとても心地よく感じるようになってきています。三重県、三重大学の「ほんわかしているところ」に癒されている自分がいます。ダイバーシティを基盤とした文化が自然につくられていくような三重県、三重大学になるといいなあ、などと夢想しています。

最終講義を終えて、という一文にはあまりふさわしくないような文章になってしまいました。30年間、たいへんお世話になりました。同僚、事務の方々、そして私とかかわっていただいた学生・院生の皆さま、あらためて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「森脇先生に敵うものは何一つない」。これが最終講義を聞いた直後の私の率直な感想でした。最終講義には先生の教育に対する思いや魂が込められていました。思えば先生は教育方法学(授業論)の研究者として、常に「授業」を大切にしておられました。先生が楽しそうに授業をしていた姿が私の目に焼きついています。何よりも教職大学院の創設と運営に多大なご尽力いただきました。その教育理念、カリキュラム、教育方法にまで至る基本的な制度設計のほとんどは、森脇先生のアイデアが具現化されたものでした。私たちはこの最終講義をひとつの区切りとして、これからの新しい教職大学院を協働・探究・創造していきたいと思えます。これまで長きにわたりお世話になりました。ありがとうございました。(教職大学院・副議長 織田泰幸)

受講者の声

「実践知と技術知の架橋」というテーマでお話していただきましたが、私の中に「森脇健夫」という一人の人生が流れ込んできました。しかし、自分の中に他者がいるのに、なぜか全く不快ではありませんでした。ただ、その世界観が心地よく、自分もいつしか時を超えて、追体験し、共に冒険をしていました。自分の人生を他者にただ見せること、それは学者として、人として最大の誠意であるように思います。森脇先生のその気持ちに今の私は返す言葉を持ちません。森脇先生は「ケアとは、心を砕くこと」であるという言葉が記憶に残っているとおっしゃいました。しかし、ケアとは、寄り添いながら、同じ風景を眺めることだと思うのです。森脇先生が今まで、そして、今日私たちにしてくださったように。ご紹介頂いた数々のエピソードからは、出会いに感謝し、他者を尊重し、生を慈しむ姿勢が通底しているように感じました。数十年後に今日の講義の内容は忘れても、誰かの魂にそっと触れるような、森脇先生の在り方、決して忘れません。最終講義の場に居合わせることができ、とても光栄でした。心よりお礼申し上げます。(学校経営力開発コース・4期生 鈴木 秀)

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院)入試広報部

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ☎ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>